在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/07 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　札幌医科大学について→文系志望の人も無関係ではない内容も◆

今回は札幌医科大学の特集です。医学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科等を目指す生徒は必読ですが、それ以外の生徒にも読んでもらいたい部分があります。どこを読んでもらいたいと思っているか、言い当てられる人は、入試でもある程度心配ありませんが、そもそも、この箇所自体も読んでいない人こそ、心配です。

□設置者は「北海道」

札幌医科大学は、戦前の北海道立女子医学専門学校を前身に、昭和 25 年（1950 年）に医学部医学科の単科大学としてスタートし、後に、看護・理学療法・作業療法の各学科を擁する医療系大学へと発展してきました。平成 19 年（2007 年）からは、北海道が設立した公立大学法人として、北海道民の強い期待に応えようとしている大学です。建学時からの「進取の精神と自由闊達な気風」は今もなお札医大を支える精神として引き継がれており、医学・医療の攻究と地域医療貢献を実現する礎になっています。ちなみに、面接試験で、「設置者は誰か知っていますか。」と聞くこともあるそうです。現に本校卒業生も実際聞かれました。

さて、ここでわかってほしいことは、札医大の設置者を覚えておけよという話ではないのです。文理問わず、自分の行きたい学校なら、どんな歴史があるのか、知っておくことも必要ではないかということです。

□保健医療学部のポイント

3学科を有する日本初の学部

保健医療学部

アドミッションポリシー

保健医療学部は、人々が健康に暮らせる社会の実現をめざして、様々な立場や役割を担う他者との連携・協働のもとに地域の保健・医療・福祉の充実と発展のため、主体的に貢献できる看護師・保健師、理学療法士、作業療法士を育成します。
そのため、次のような資質を有する学生を求めます。

1. 将来は、看護師・保健師、理学療法士、作業療法士として人々の健康と生活を支える役割を担いたいと考えている人
2. 地域社会への興味・関心を持ち、北海道の保健・医療・福祉に貢献する意志のある人
3. 良心と社会規範にしたがい、良識ある行動ができる人
4. 人々との交流を大切にし、常に温かな配慮をもって他者と接することのできる人
5. 広く社会に目を向け、知的探求心をもって柔軟な発想で物ごとをとらえることのできる人
6. 人々や社会とのかかわりを通して自らの成長を願い、粘り強く物ごとに取り組むことのできる人

■ 入学までに身につけておいてほしいこと

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力

1)人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎知識

保健・医療・福祉は人間を対象に社会の中で営まれる実践です。したがって、文化や自然、社会に関する偏りのない基礎知識が不可欠です。

2)人々との交流を深め、論理的に思考し、表現するための語学力

保健・医療・福祉の実践は人々との交流を基盤とします。したがって、まず、日本語で読み、書き、聞き、話すコミュニケーション力が重要です。また、それらは論理的に物ごとをとらえ、考える力につながります。高等学校までに学ぶ特定の外国語の基礎能力も身につけておく必要があります。

2. 他者との連携・協働により物ごとに取り組み成し遂げた経験

保健・医療・福祉の実践はチームで取り組みます。他者と連携・協働して何かに取り組んだ経験は専門的実践を学ぶ上での力となります。

3. 自らの疑問を解決し、知識を深めるための学習習慣

専門職には生涯にわたる自己研鑽が求められます。疑問を解決するために、また、知識を広げ深めるために、自ら進んで調べ学ぶ習慣を身につけておく必要があります。

4. 健康な生活を送るための基本的生活習慣

人々の健康と生活を守るためには、まず自分の健康に心がけ、しっかりとした基本的生活習慣を身につけていることが不可欠です。

看護・理学療法・作業療法の 3 学科をもつ保健医療学部ですが、まずアドミッション・ポリシーを読んでみてください。こういう生徒がほしいということが書かれていますから、熟読してください。もうわかると思いますが、熟読してほしいというメッセージは、札医大を目指す人のみの話ではありませんよ。

特に注目したいのは、「入学までに身につけておいてほしいこと」の中に「自らの疑問を解決し、知識を深めるための学習習慣」とあることです。最近のさまざまな研究では、こういう姿勢を高校時代に「身に付けようと意識した人」と「そうでない人」との高校卒業後の伸びが違うことが実証されてきました。補足しておくと、こういう姿勢は、大学に行ってから身に付ければいいではないか、という意見もおそらくあると思います。なぜ大学に行ってからではいけないのか。それは、大学の初年次教育が現在は大変重要な位置を占めているからです。どの大学も入学して 1 年目の初年次教育に力を入れています。そういう姿勢を高校時代に少しでも身に付けようとした人と、大学で身に付ければいいやという人とでは、大学教育に対する初年次からの取り組み方が変わります。初年次のその差は、なかなか埋まらないようです。大学以降の伸びは高校時代の「疑問をもって解決しようとする」姿勢にもあるのですね。いわゆる勉強だけではなく、湖陵祭に向けた取り組みでも、少しはそういう姿勢を身に付けていけるのではないでしょうか。

□　保健医療学部の入試について

①今年度から、センター試験の地歴のＡ科目「日本史Ａ」「世界史Ａ」「地理Ａ」は受験に使うことができません。
②看護学科は、センター試験において、「理科 2 科目・地歴公民 1 科目」という受験の仕方と「理科 1 科目・地歴公民 2 科目」という受験の仕方を選ぶことができます。昨年度の入試では約 2 割が、地歴公民 2 科目の文系型からの受験をしたが、理科 2 科目の理系型受験者の方が合格率が高かったそうです。理科をきちんと学んでいる人の方が、合格しているという結果だったそうです。あわせて、過去には、地歴公民 2 科目の文系型で入学した受験生が入学後、理系分野の学習で苦労する面も見られたとのことでした。このような現状ですが、新課程入試が始まったばかりで、変更したばかりなので、早急に受験科目を変える予定は現在のところ無いそうです。
③集団面接試験
５～６人で１グループを構成し、与えられたテーマについてフリーディスカッションをする形式です。司会役をするか否かは重要ではなく、また、発言の頻度が多ければ良いというわけでもないそうです。1 つの結論に到達することや全体の話し合いをまとめることを目的とはしていないとのことです。受験生の討論に臨む姿勢や意欲を含めたコミュニケーション力を評価することが目的です。時間は２０分程度。
④個人面接試験
個人の様子を多面的に評価するために、あえて集団面接と同じ面接委員がその受験生の個人面接も担当するとのことです。言語情報（発言内容）、非言語情報（目線・姿勢・しぐさ等）を総合して医療職者としてふさわしいか否かを判断する、とのことです。

★面接試験について～これだけは～　　※札医大だけの話ではありません。

面接試験のときだけ、いいことを言おう、いい姿勢で臨もうという考え方は甘いと思います。最近の面接は一問一答式ではなく、「いもづる式」です。自分の答えた内容からさらに質問が投げかけられる形です。「高校時代に頑張ったことは？」→「部活動です。部活動では・・・のように力を入れました。」→「なぜそのように力を入れてみようと思ったのですか。」→「・・・からです。」→・・・と続くうちに自分の本音やものの考え方が

表にあらわれてくるのです。入試の面接官が知りたいのは、その受験生の本当の姿です。何かテクニックのようなもので、面接を乗り切ろうという考えは危険です。それよりも、自分の体験学習のレポートや志望理由など、進路学習で高校１年生のときから取り組んできたものをきちんとファイルなどにとじて、残しておくことです。自分がどういうプロセスでその学校等を志望するに至ったのか、自分で 3 年生になった時に確認できるようにすることが大切です。

□医学部

地域貢献と先進医療

医学部

アドミッションポリシー

医学部は、北海道民の健康と医療を守り、地域に貢献できる医師及び国際的・先端的研究を通じて世界に貢献できる研究医を育てます。そのため、次のような資質を有する学生を求めます。

1. 命を尊ぶ心を持ち、病める人を救う情熱のある人
2. 周りの人への思いやりと奉仕の心、倫理観を持っている人
3. 良心と社会規範に従い、良識ある行動ができる人
4. 医師・研究医となるにふさわしいコミュニケーション能力、協調性及び想像力を持っている人
5. 地域社会への興味・関心を持ち、北海道に貢献する意志を持つ人
6. 国際的視野で考え行動し、科学的探究心と創造力を持って学習に取り組める人

■ 入学までに身につけておいてほしいこと

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力

1)医学を学習するための基礎学力

生命科学としての医学を学習するに当たって、生物、化学、物理及び数学の基礎学力は必須です。さらに、医療と医学研究の場では、人との交流が基盤となります。それを支えるコミュニケーション能力を発揮するために、論理的に思考し、相手に伝えることのできる正確な日本語と国際的視野で考え行動するための英語の学力が重要です。

2)人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎知識

医学研究と医療の実践には、人文社会科学の視点から健康・疾病を理解することも必要です。そのために、自然科学のほか、人文社会科学など幅広い領域に関する基礎知識が不可欠です。

2. 自ら課題を探求し、問題を解決する学習習慣

医師には生涯にわたる自己研鑽が求められます。自ら課題を抽出し、問題点・疑問点を解決していく積極的な学習姿勢が必要です。

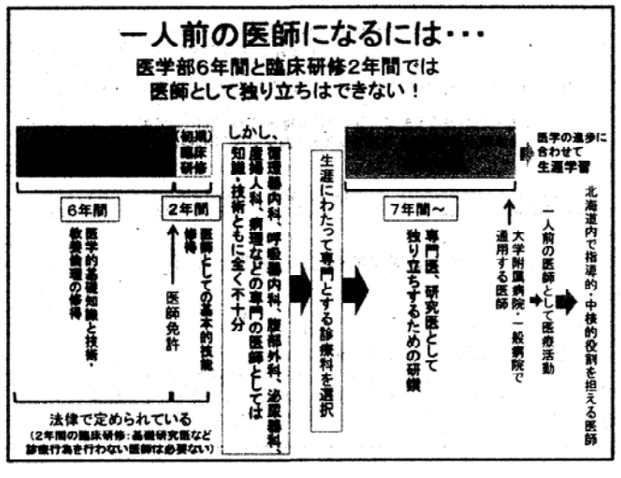
3. 自主的、協調的な態度と行動

チーム医療なしには医療は実践できません。医師は医療チームの一員として、他者と連携・協調して行動することが求められます。

4. 健康な生活を送るための基本的生活習慣

人々の健康を守り、病に立ち向かう医師となるための精神力と体力が必要です。まず自分の健康に心がけ、基本的生活習慣を身につけていることが不可欠です。

「入学までに身につけておいておいてほしいこと」の中に「自ら課題を探求し、問題を解決する学習習慣」とあります。なぜこれを高校時代に身に付けようとすることが大切なのかは、保健医療学部のところで述べた通りです。与えられる課題をこなすだけでは、通用しないのです。大学に入ってからでも遅いのです。



□医学部の入試について

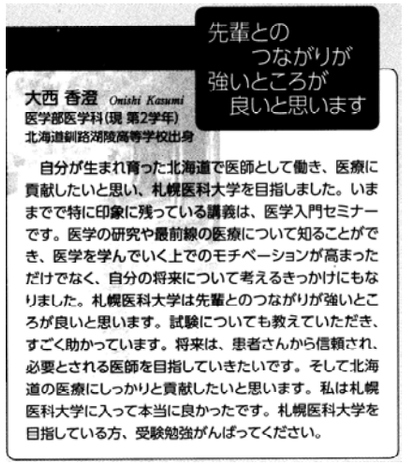
一人前の医師になるには、最低でも大学卒業後 9 年はかかそうです。札幌医大が責任をもって医師を育て、北海道の医療に貢献できる人材を育成したいとの考えから始まったのが、一般入試での「北海道医療枠」です。一般入試には「北海道医療枠」と「一般枠」の２つがありますが、大学卒業後の 2 年間行われる初期臨床研修を終了した後に札医大または札医大の付属病院に所属し、7 年間札医大及び道内医療機関において医学・医療に従事するという卒業後の必修プログラムに参加することを確約することが求められるのが「北海道医療枠」です。必修プログラムの期間中に「専門医を取得すること」や「国内外留学」「出産育児などの一時的な休業」なども認められている制度で、長い目で北海道の医療に貢献する医師を育てようをするプログラムです。

一般入試は、「北海道医療枠」55 人、「一般枠」20 人の合計 75 人が募集定員です。成績上位者から 75 人をとりますが、「一般枠」は最大 20 人に達したところで合格者をとらないのに対して、「北海道医療枠」は 75 位以内に入っていれば、定員の 55 人を越えて合格させます。その場合、「一般枠」の合格者は 20 人に満たないこともあります。今年度の入試では、この方式で入試を行った結果、「北海道医療枠」は、357 人の出願に対して、第１段階選抜（足切り）合格者が 295 人、最終合格者 63 人、「一般枠」は 101 人の出願に対して、第１段階選抜（足切り）合格者が 80 人、最終合格者は 12 人でした。新聞発表される倍率は、あくまでも「北海道医療枠」55 人、「一般枠」20 人という定員に対しての倍率であり、札医大の場合実際とは大きく異なるので注意が必要です。

卒後必修プログラム	北海道医療枠プログラム	特別枠プログラム
入試枠	一般入試「北海道医療枠」 推薦入試「地域枠」	推薦入試「特別枠」
確約書	必要	必要
修学資金貸与	なし	あり （義務年限修了で返還義務免除）
初期研修後の卒後プログラム	卒後3～9年目の7年間、札幌医大医学部に所属し、研鑽を積み、専門医取得 兼務な対応可 （国内外留学、出産子育て等）	卒後3～9年目の7年間のうち、5年間道知事指定病院に勤務（1,7B施設と22研修病院）・2年間は札幌医大を含む道内研修病院
札幌医大講座・診療科への所属	必ず所属	制限なし
診療科の選択	自由（制限なし）	自由（制限なし）
附属病院以外の研修病院決定	本人と所属講座・診療科で協議	本人と道保健福祉部 （札幌医大診療科に所属の場合、3者で協議）
大学院への進学・専門医取得	可能・専門医取得	可能・専門医取得も目指せる

□医学部の推薦入試について

医学部の推薦入試には、「地域枠」20 人「特別枠」15 人の 2 種類があります。「地域枠」で合格した生徒は一般入試の「北海道医療枠」で合格した学生と同じ卒業後プログラムを受けることになります。現役のみが挑戦することができます。「特別枠」については、現役＋ 1 浪まで挑戦することができますが、卒業後 9 年間中 5 年間は知事が指定する道内医療機関で勤務することを確約しなければなりません。ただし、大学中から奨学金が北海道から与えられます。出願を考えている人は、配点や提出物など違いがたくさんありますから、よく確認する必要があります。



推薦入試総合問題について

- 「一般枠」と「特別枠」で同じ問題
- 学力も含めて作問する
- 医学の知識そのものを問うことはない
- 評価のポイント
  1　資料を正確に読み取る。
  2　他者の意見を把握する。
  3　自分の意見を根拠をもって相手に通じる表現で述べる。

←今年度の札幌医科大学募集案内「LEAP 2016」には湖陵高校卒業生の声も紹介されています。その中から医学部に合格した先輩の声を載せておきます。